大野づくり計画策定・推進委員会（垂水市）

うのばいブランドがつなぐ人と地域

うのばい＝大野原

高齢化率
61.7％
81 人
地域の人口
令和４年２月時点

いきいき祭り

地区概要

標高 550ｍに位置し、桜島の大正噴火や昭和噴火、戦後の入植者により開拓された３つの集落から構成される。農林業に従事する住民が多く、地区内に鹿児島大学演習林がある。

コミプラ設立の経緯

垂水市のモデル地区として選定され、平成 22 年度に 10 年後の大野の「一番のねがい」「ありたい姿」の実現に向けた取組をまとめた「大野づくり計画」を策定し、中間期の平成 26 年度に「大野づくり計画　見直し版」を策定した。計画期間終了に伴い、令和２年度には「第２期大野づくり計画」を策定。計画策定にあたっては、地区住民で協議を重ね、意見を集約した。

鹿児島大学の学生サークルから発展した「NPO 法人森人くらぶ」や鹿児島大学演習林、旧大野小中学校を活用し、垂水市・鹿児島大学・大野地区の三者の協力で運営される社会教育施設「大野 ESD 自然学校」などと連携し、様々な活動を実施している。

特徴的な活動

①地域外の人を巻き込む力

大野地区はそこに住む人は少ないが、鹿児島大学の演習林があることや、多くの従業員が勤務する企業が立地していることから、関係人口は多い。そういった団体と連携することにより地区外の人たちを巻き込み、地区の活力を生み出そうとしている。また、地区住民だけでは伝承が難しい伝統芸能「大野棒踊り」も、地区外の大学生や地区出身者の参画により伝承・振興を図っている。

鹿児島大学演習林での植樹

大野棒踊り

②地元産品を使った地域活性化

地元の特産品であるつらさげ芋の増産に対応するために、地区共用の芋干場や貯蔵庫を整備した。維持費は利用者から徴収する管理費で賄っている。

芋干場

いきいき祭りでの特産品販売

また、つらさげ芋をはじめとする地区の特産品を、「うのばいブランド」として確立させるため、道の駅等で販売する際に、商標登録した地区のロゴマークを貼り、アピール強化を図っている。

生産から販売までの体制整備、口コミによる消費者増加等により、ブランド力を高めた結果、安定した収益を得られるようになった。

平成 22 年度から開催している「大野原いきいき祭り」では、つらさげ芋の販売を目玉とし、その他にも地区の農産物や６次産業化商品等の「うのばいブランド」を販売。毎年、地区内外から約 1,500 人が訪れる。

今後の展望（コミプラの声）

うのばいブランドの販路拡大に適した新商品開発や直売所の設置、地区内外の人材による活動体制の構築、空き家調査による移住者向け物件の掘り起こしなど、様々な活動に取り組むことで、大野に来る人・住む人を増やし続けていきたい。

垂水市から一言

大野地区は、垂水市の地域振興における先進地区になっています。リーダー的存在を中心に、地区内外の方々が活発に活動しています。地域振興計画に基づく地区のやりたいことが明確になっているため、行政も地域振興に関わりやすくなっていると感じています。

利用した補助金など

- 過疎集落等自立再生緊急対策事業（総務省）（H25 年度）
- 過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省）（H27 年度）
- 市町村協働の仕組みづくり促進事業（鹿児島県）（H24 年度）
- 垂水市まちづくり交付金（市）（H23 年度～）

大野づくり計画

大野 ESD 自然学校
大野地区

PASSION

やりたいことを共有すべし！

community platform report